

ビジネスゲームで経営と会計に力を

# M-Cass

ビジネスゲーム M-Cass プレゼンツ

アクティブラーニングと学習方略で  
身につける！

簿記検定2級試験対策講座



## 本日の内容

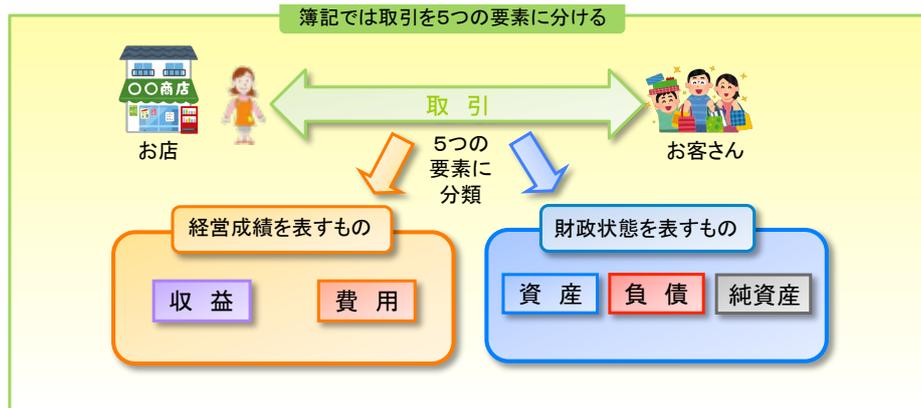
- テーマ1. 簿記の仕訳を原理から理解してみよう
- テーマ2. 一点集中学習とそのためのスケジュールリング
- テーマ3. 試験について自分なりに研究しよう

# 1. 「簿記は仕訳が命！」～簿記の原理から理解しておこう

## (1)複式（二式）簿記は取引を5つの要素（勘定）に分類して記帳

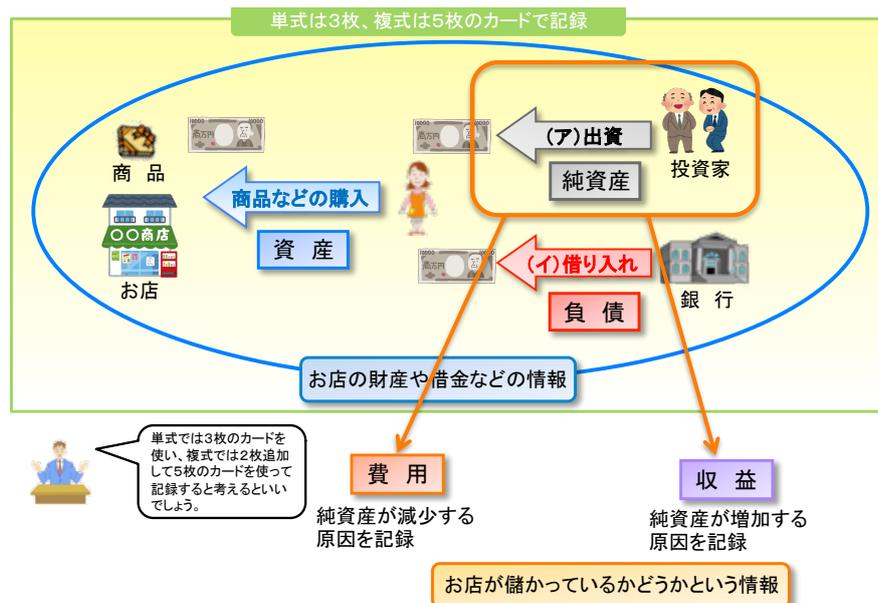
5つの分類することで、次の2つの財務諸表を作れます（だから二式）。

- ①「経営成績」を表す「損益計算書」
- ②「財政状態」を表す「貸借対照表」



## (2)5つは多い?! いやいや実は、実質的に3つの要素（勘定）なんです。

複式（二式）簿記は、5つの勘定に分類しましたが、「収益」と「費用」は純資産の勘定が2つに分かれただけです。よって、①資産、②負債、③純資産の3つの勘定で財務諸表（貸借対照表）を作成することができます。これを単式（一式）簿記と言います。



## 2. 第1問対策「仕訳問題」を簿記の原理から制する。

めちゃくちゃ数が多く感じる簿記の仕訳ですが、実は「5つの勘定」の組み合わせでしかありません。そこで、膨大な仕訳については、具体的名称である「勘定科目」ではなく、「勘定」で理解することが大事です。

<勘定と勘定科目について>

取引例：銀行から現金 100 円を借り入れた。

(勘定による仕訳)

現金 → 資産の勘定    借り入れ → 負債の勘定

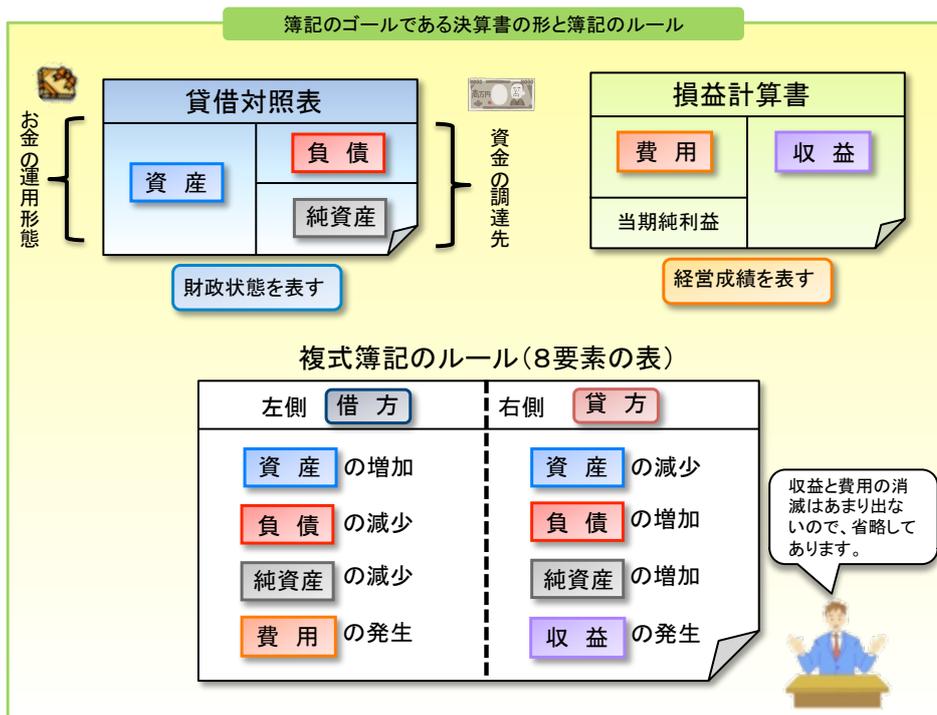
(借方)	資 産 100	(貸方)	負 債 100
------	---------	------	---------

これでは、具体的に何なのかが分からないので、実際の記帳では、具体的名称に直した、「勘定科目」で仕訳をする。

(勘定科目を使った仕訳)

現金 → 資産の勘定 → 現金 (名称)    借り入れ → 負債の勘定 → 借入金 (名称)

(借方)	現 金 100	(貸方)	借入金 100
	勘定科目		勘定科目



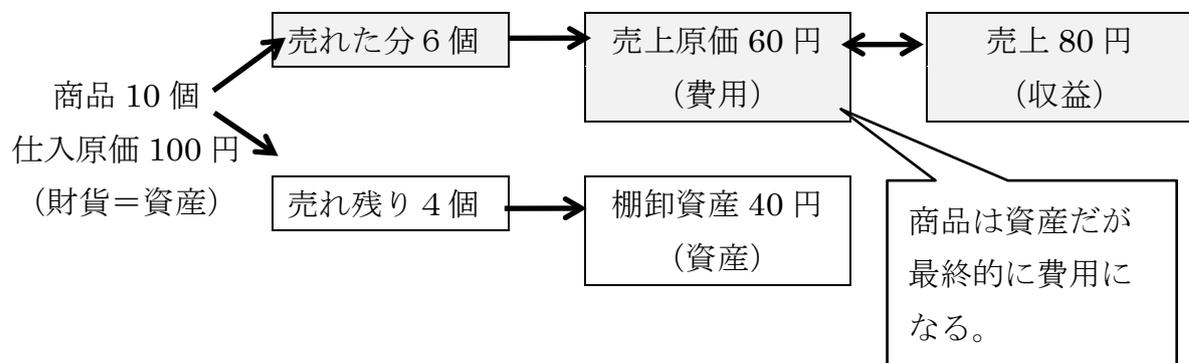
**【商品売買取引の仕訳を簿記の原理で分類すると・・・】**

商品売買取引の仕訳を複式簿記の原理で分類すると、次のように分けることができます（簿記検定2級試験の出題範囲のみ）。

考え方	会計処理方法
第1法 仕入れ時に「資産の増加」として処理しておいて、販売時に「費用の発生」として処理する方法。	①分記法 ②売上原価対立法
第2法 仕入れ時に「費用の発生」として処理しておいて、決算時に「費用の消滅」と「資産の増加」として処理する方法。	三分割法

（例えば）

1個10円の商品を10個仕入れ、その後、6個を80円で販売した。



**第1法による考え方（売上原価対立法）**

①商品を仕入れた時に「資産」が100増えたとして処理

資 産	費 用
仕入 100 (10個)	

(借方)	商 品 100	(貸方)	現 金 100
	資産の増加		資産の減少

①商品「資産」100のうち、60を販売したので「費用」に振り替える。

資 産			費 用	
仕入 100 (10 個)	売上原価 60 (60 個)	→	売上原価 60 (60 個)	
	期末 40 (40 個)		※費用計上額が 60 となっている！	

(借方)	売上原価 60	(貸方)	商 品 60
	費用の発生		資産の減少

### 第2法による考え方 (三分割法)

①商品を仕入れた時に、どうせ費用になるからと「費用の発生」として処理

費 用			資 産	
仕入 100 (10 個)				

(借方)	仕 入 100	(貸方)	現 金 100
	費用の発生		資産の減少

②売れ残り商品を資産に振り替えて、売れて分だけを費用として計上する。

費 用			資 産	
仕入 100 (10 個)	期末 40 (40 個)	→	期末 40 (40 個)	
	売上原価 60 (60 個)		※費用計上額が 60 となっている！	

(借方)	繰越商品 40	(貸方)	仕 入 40
	資産の増加		費用の消滅

簿記の仕訳は「8要素」の組み合わせでしかないことを理解しておこう！  
 このことで、「仕訳問題」で仕訳を忘れた時に「思考」を進めることで、解答を推論できます！

### 3. 第1問対策：集中学習する「仕訳論点」をピックアップしよう！

簿記検定試験対策として、直前期においては、「論点ごとにマスター」していくための「論点ごとの一点集中学習」が効果的です。そのため、過去の出題から2回以上出題されている頻出論点をピックアップし、当該論点を一点集中学習することで、優先的にマスターしてください。

#### 第1問仕訳問題：頻出論点はこれだ！！（139回～148回で集計）

出題分野	論点（14論点）	頻度	得点戦略
商品売買	割引と割戻	4回	配点20点 (12点以上の得点を目指しましょう！)
	クレジット売掛金	3回	
手形	営業外手形	3回	
有価証券	有価証券の購入・売却	4回	
	端数利息の処理	2回	
固定資産	建設仮勘定	3回	
	ソフトウェア	2回	
研究開発	研究開発費	3回	
純資産	株式の発行	3回	
	剰余金の処分・係数の変動	2回	
税金等	消費税の処理	5回	
引当金	引当金の処理	5回	
その他	本支店取引	3回	
	外貨建取引	2回	

#### 上記のうち、さらに優先すべき10論点をピックアップ

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

以上より、10論点÷3週間＝  
1週間で 個の論点をマスターしていけばいいということになる。

#### 4. 第1問対策：クレジット売掛金をマスターしよう！

(1)学習方略1：比較して理解する

【第146回検定試験第1問1.】

商品¥200,000をクレジット払いの条件で販売した。なお、販売代金の2%にあたる金額を信販会社へのクレジット手数料として販売時に計上し、信販会社に対する債権から控除する。

【解答】

借方科目	金額	貸方科目	金額
クレジット売掛金	196,000	売上	200,000
支払手数料	4,000		

これが、通常の掛売上の場合ならどうなるのかを考えてみる。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	200,000	売上	200,000

(比較して考察)

下記の点について自分なりに説明してみよう！

①両者で仕訳が異なる点はどこだろう？

②仕訳が異なるのは何故なのか？取引の違いから理解しよう。

上記と同じ思考で理解していくものとして、下記の論点があります。

取引の性質の違いによりどう異なるのか、自分で要点を書いておこう

①割引と割戻

②営業外手形	
③研究開発費	

## (2)学習方略2：過去問を自分なりに研究する

クレジット売掛金について、第146回検定試験（下記）以外の問題を確認して、どんなパターンで出題されているか研究してみよう。

商品¥200,000をクレジット払いの条件で販売した。なお、販売代金の2%にあたる金額を信販会社へのクレジット手数料として販売時に計上し、信販会社に対する債権から控除する。

### ①クレジット売掛金の出題パターン

②解法のポイントを自分なりに3つ挙げておこう。

### 【下記の論点についても自分なりに研究しておこう】

①割引と割戻	①出題パターン ②解法ポイント
②営業外手形	①出題パターン ②解法ポイント
③研究開発費	①出題パターン ②解法ポイント

